

あけましておめでとうございます

नयां वर्षको उपलक्ष्यमा मंगलमय शुभकामना

2017年も皆様のご健康とご多幸をお祈り致します

今年、ミランクラブの活動が始まって29年を迎えました。私たちの活動目的は一貫して社会から取り残されている恵まれない孤児または母子家庭の女子への教育支援です。

☆スローガンに『すべての女性に教育を！』を掲げています。将来の自立を助け、国の発展に寄与できるよう活動しています。

なぜ、女子だけを就学支援対象者にと聞かれることがあります。

ネパールでは勉強をしたくても学校へ行けない子供が大勢います。特に女子への教育は後回しにされる、その理由には以下の事柄があります。

- ◆社会に根強く残る男尊女卑の風潮から女性は教育の機会に恵まれていないこと。
- ◆カースト制度による差別や偏見が未だに残っていること。
- ◆女性の地位が低いため現金収入の仕事がないこと。
- ◆早婚、10代での出産により教育や社会進出から取り残されること。
- ◆教育を受けられなかった女性が母親になり、子供に教育の大切さを伝えられないこと。
- ◆弱い立場の女性への家庭内暴力、虐待や人身売買の存在があること。

都市部では地方に比べ教育施設も多く、教育への重要性も周知されてきているのと、海外からの影響もあり男女差別への意識の変化は表れてきています。しかし、農村部では未だに差別が根強く残っている現状があります。

ここに、昨年度ミランクラブジャパンが行った主な活動内容について報告した

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン
いと思います。

一昨年4月25日7.8Mという大地震に見舞われたネパールでは多くの犠牲者が出ました。そして50万人以上の人々が家を失い、避難生活を余儀なくされました。

少しずつ落ち着いてきてはいますが、国からの支援もない多くの貧しい被災者を取り残されています。今でも不自由な生活を余儀なくされています。

震災から約1年半、インドの内政干渉による経済封鎖で物価の高騰、品不足により復興が遅れ、今も経済は遅れたままです。

ミランクラブジャパンは教育支援活動と並行して災害支援活動も行い、昨年3月までに6,321,260円もの多くの義援金が集まり、一昨年から昨年にかけてミランクラブネパール役員、スタッフ、関係者家族らで支援活動を行いました。義援金については昨年会報8月・9月合併号で報告させていただきました。

そして一昨年から始まったJICA基金からの特別奨学金は、被災した貧窮家庭の子供たちに昨年も継続して届けることができました。これは被災により勉強が中断することなく続けられるよう設けられたものでした。

また国内でのイベント参加を下記により行いました。

4月23日、11月12日

越谷しらこぼと水上公園で埼玉支部によるフリーマーケット参加

5月1～7日

さいたま市市民活動サポートセンターにてネパール大地震1周年写真展開催

5月3、4日

さいたま市民の森・見沼グリーンセン

ターにて国際友好フェア 2016 に参加
5月28日

東京市ヶ谷、JICA 地球広場設立 10 周年
 記念感謝祭で出展・販売

9月23日

越谷コミュニティーセンターにて写真
 展～大地震から 1 年のネパールとアジ
 ア～

10月1、2日

東京お台場、グローバルフェスタ JAPAN2016 に
 参加

10月2日

さいたまスーパーアリーナにて国際フ
 ェア 2016 に参加

次に私たちが行っている支援の現状を
 簡単にご紹介します。

1. ミラン里子制度

ミラン里子制度は、1990 年から始まり
 ました。現在里親会員は 96 名です。会員
 からの会費 15,000 円の内、12,000 円は利
 子の高いネパールの金融機関に預け、そ
 の利子からの教育支援を行ってきていま
 す。しかし諸事情により、ここ何年かは
 元本を取り崩さなければならなくなっ
 ています。(3,000 円は国内活動費) ミラン
 クラブの支援は、多くの支援団体の短期
 の支援と違い、自立可能な高校卒業ま
 までとなっています。又、高校を優秀な成績
 で卒業し、進学希望がある里子にも支援
 をしています。

1990 年に 1 人の里子から始まったこの
 制度は現在 935 名になりました。現在支
 援を受けている子供たちは 287 名、その
 内訳は小～高等学校 264 名、大学生 23 名
 です。今年 4 月の SLC を受験する里子は
 28 名になる予定です。

里子たちの中には教員、会社員、エン
 ジニア、医師、看護婦等の職業に就き自
 立し、社会貢献している卒業生も増えて
 います。結婚した里子たちは教育の大切
 さを子供たちに伝えていくことでしょう。
 ミランクラブは毎年支援金で賄える範囲
 で新しい里子を受け入れています。教育
 支援費は小学校 1 年生から高校 10 年生は

700 ルピー(約 700 円)を支援しています。
 そして成績優秀で卒業した短大以上の学
 生にも 700 ルピー(約 700 円)支援して
 います。支援は重複することはなく、里
 親が付いた場合、ミランクラブからの支
 援は打ち切られます。しかし短大以上の
 ミランクラブからの学生支援は 3 年前に
 中止となり、現在支援を受けている学生
 が卒業したら完全に廃止されます。短大
 へ進学する成績優秀者への支援は特別里
 親からだけになっています。



日本からの会員を迎えるグルカの里子たち

年度別支援里子人数

1 名	1 名	11 名	19 名
1990 年	1991 年	1992-93 年	1994 年
29 名	23 名	29 名	27 名
1995 年	1996 年	1997 年	1998 年
37 名	45 名	26 名	31 名
1999 年	2000 年	2001 年	2002 年
32 名	118 名	26 名	54 名
2003 年	2004 年	2005 年	2006 年
34 名	42 名	31 名	35 名
2007 年	2008 年	2009 年	2010 年
33 名	46 名	45 名	69 名
2001 年	2012 年	2013 年	2014 年
47 名	44 名	総合計 935 名	
2015 年	2016 年		

2. ミラン職業訓練所

今までミラダルマスタリ学園センタ
 ー敷地内にある職業訓練所で年一回のミ
 シンやコンピュータクラスを行っていま
 したが、一昨年の大震災による建物への
 損害から 2 階を取り壊したため、職業訓

練は行えませんでした。ドルカ支部へ貸し出していたミシンの機材は、大地震の際、建物倒壊により使えなくなりました。コンピュータに関してはフォトボランティアグループからの寄贈により昨年11月にクラスを開始することができました。また今後は学校内にある無事だったミシンを貸出して、職業訓練を行う予定です。コンピュータコースは11月～5月まで半年コースで2クラスを持っています。

昨年は岐阜淡墨ロータリークラブから学校への直接支援で5台のノートパソコンを購入することができました。これは学校教育現場で使われています。

職業訓練は多くの村人たちの自立支援に役立っています。職業訓練では訓練生に教材費の一部を負担してもらい、その他の費用は毎年、教育環境整備委員会費から教師の給料や設備費などを賄っています。ダルマスタリ学園センターにあるコンピューター設備は一部の学生も使えるよう工夫されています。

3. ミランダルマスタリ学校

地震後義援金で建てられた仮校舎での授業は、簡単に修理が施された本来の校舎に移動しています。学校は少しずつの修繕を繰り返し行っています。地震の影響で使えなくなったトイレは別の場所に新しく建設されました。



子供たちの安全を考えると、学校は建て直す必要がありますが、これにはもうしばらく時間が掛かりそうです。

ミランダルマスタリ学校は、ネパール教育省の登録方針の下、保育園～10年生（高等学校）までの学校となっていました。新しい制度が始まると1年生～8年

生まではベーシッククラス（基礎教育コース）、9年生～10年生は中等教育コース（中学校）そして11年生～12年生はSLC（School Leaving Certificate 高等学校）の名称となる予定です。現在、学校教職員は23名（男性9名、女性14名）、全校生徒は392名（男子188名、女子204名）です。

新教育制度予定

JAPAN			
小学校	中学校	高校	大学
6年	3年	3年	4年
NEPAL			
基礎教育	中学校	高校	大学
8年	2年	2年	4年

学校はミランクラブの主旨に基づいて、一人でも多くの子供が学校へ行けるように奨学金制度も設けています。現在、奨学金を受けている生徒は95名います。奨学金の種類は全額、半額、20%免除があります。学費は経済的に恵まれない子供たちも学べるよう、他の私立学校から比べると3分の1の安さとなっています。公立学校から比べても2分の1となっています。そんな訳で他の学校と比べ先生方への給料の安さ解消が課題となっています。

MDS 学校生徒数と授業料

学校	学年	人数	学費 Rp
保育園	1年生	38名	790
	2年生	39名	830
幼稚園	1年生	28名	870
	2年生	35名	900
	3年生	36名	930
	4年生	42名	960
	5年生	29名	1,000
小学校	1年生	28名	1,040
	2年生	26名	1,100
	3年生	29名	1,140
	4年生	25名	1,170
中学校	1年生	21名	1,230
	2年生	16名	1,290
	3年生		
高等学校	1年生		
	2年生		

各学校の評価は、難関である高等学校卒業試験（SLC）にどれだけの生徒が合格するかで決まります。ミランダルマスタリ学校では合格率 100%で、昨年も一昨年並みの特等級や一等級に当たる優秀な成績を残すことができました。今年の受験生は 16 名います。頑張っていて欲しいです。

学校にはまだまだ設備等は不足していますが、昨年 10 月から Wi-Fi も設置され、外部との連絡は大変便利になりました。

学校紹介のホームページも下記 URL により常時更新しています。

(<http://www.milanschool.edu.np>)

そして運営可能範囲で不定期ですが全生徒の健康チェックや年 2 回遠足なども行っています。学校の評判はとても良く、遠方からも通って来ているのでミラン寄宿舎の利用も増えてきています。



昨年夏より新しくなった制服での先生方

4. ミラン図書室

ミラン図書室には保育園から大学まで幅広く利用できる約 8 千冊の図書が揃えられ、多くの生徒に利用されています。インターネットやコピー機も使えるため、学校の授業にも活用されています。

現在は図書室の屋上を雨漏りから守るために増築のような形でトタン屋根を立ち上げています。一昨年の地震による建物の損傷で別の場所に一時避難していた蔵書やコピー機などは、義援金で修復された図書室に無事戻りました。

5. ミラン寄宿舎

寄宿舎は学校敷地内にあり、通学は 1

分もかからない便利さです。現在 16 名の生徒が暮らしています。寄宿生の食事の世話は料理担当のスタリ・スレスタが一人で行っています。そして宿題の手伝いや子供たちの生活指導は、スミトラ・アディカリとルパク・アディカリ先生が行っています。学校内で一番古くからいるのはガードマンのハリー・バクタ・カドギです。11 月に交通事故に遭い暫く休んでいましたが、一ヶ月で復帰することができました。

寄宿舎は 2 階建てで、1 部屋に 2 段ベッドが 4 つあり、8 名入れるようになっています。1 階に 4 部屋と 2 階に 6 部屋あります。それに食堂と学習室があります。食堂はイベント時に使用されることもあります。



父母会後、午後のスケジュールに合わせ会食

地震後、義援金で寄宿舎の屋上にも軽量パイプとトタンで雨漏り防止策をとりました。そしてこの空間も生徒たちに利用されています。

昨年も一昨年に引き続き震災後のネパールを会員、関係者の方々が訪れ視察したり支援金を渡したり、励ましたりしてくれました。昨年は美術教師として武藤慧子さんが 10 ヶ月間ミランダルマスタリ学校に滞在して授業を行ってくれました。短期、長期と学校への訪問者も年々増え、社会への第一歩としての教育現場の活性化へと繋がっています。私たちの活動は皆様からの変わらぬご支援にいつも助けられています。

これからもどうぞよろしく願い致します。